



赤池 昔物語
法印

初春

美丸画

全
馬食二
森屋板

~13
2378
174



遠 13
2378
174



和名抄狐本是
稱射干也關中
呼為野干語訛
也蓋野干別獸
也見三才圖會

狐
射干

志中記云狐百歲者一變美女成神
 一變丈夫一變一女子一交接一十歲次
 一變千里外事一變五雜組一變千
 の狐一變て天に通一魅をくくくを
 然凡しも一狐氣あま狐捨とのるも
 其邪氣虚かあて入少くあま狐者
 遠近聞見狐の跡一赤地法師の言あり
 悪道濁乱りておの身を行はし慢一放
 とおまひ狐とけりいく俗人と感一全
 と探りて世もいく狐の所をいへて怪
 念念合伴一は印をく怪事かたし
 終小其狐一伏一今東海通一其名と
 一てらくく人の言をたれバ書符の定
 くとせ其譚一狐思一てらくく





あつたてん
あつた
あつた
あつた
あつた

○加監平輔



○光
赤池法印

○花垣兵衛
彼者



蛇
蛤
蛭
蟻

俗名 青止加介

蛤蛭の毒は喰蛇の如く毒色を以て
青斑の毒の如く古傳の故の如く長天
計尾種く其毒最大あり此蛇は其
抱合てばやあ人も其捕まへては
かち毒おれしとて下り刑を大毒あり
人護て是れ食くは忽毒ありては
以て時珍曰山石の間おまを石籠とて又
猪俣蛇とて名をたかん其毒生る

しゆくふくふくさのこゝろは
うらやまのしゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは



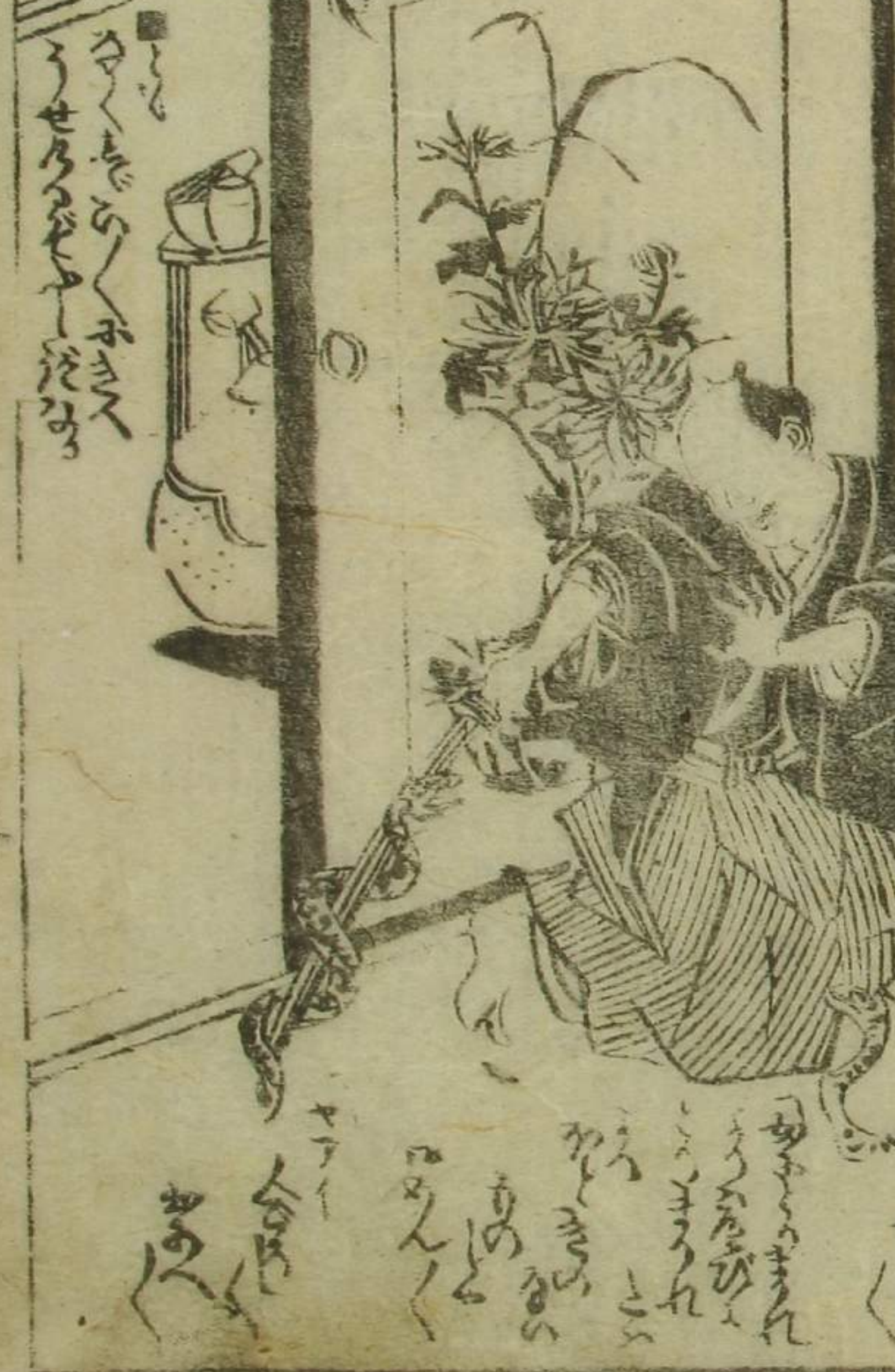
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは

しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは



しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは

しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは



しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは
しゆくふくさのこゝろは





あつては
まねて
たうた
まねて
たうた
まねて
たうた

あつては



よひの
まねて
たうた
まねて
たうた
まねて
たうた

あつては
まねて
たうた
まねて
たうた

あつては
まねて
たうた
まねて
たうた
まねて
たうた
まねて
たうた
まねて
たうた
まねて
たうた

昔のやうな年まけのやうな...
おのれをいふに...
あつた...
まゝに...



あつた...
まゝに...
いふ...
あつた...

今昔赤池法印 後編

十返舎一九作 全五冊 正刊
一巻一本 秋田

江戸十返舎一九編 貞
彩霞楼園丸

